

令和6年度第2回広島市教科用図書採択審議会会議録

署名者

小田 啓史

会議録調整者

藤本 充泰

令和6年7月12日午後1時00分 令和6年度第2回教科用図書採択審議会を広島市教育センター3階第13研修室において開催した。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後1時00分

閉会 午後4時45分

2 出席委員

会 長 小田 啓史
委 員 佐々木 英三
委 員 東 歸 達子
委 員 藤 村 渉
委 員 大 出 愛
委 員 中村 謙太郎
委 員 沖野 由佳
委 員 船谷 季弘
委 員 長谷川 明子
委 員 山田 浩之

副 会 長 佐藤 真実子
委 員 河 野 緑
委 員 佐々木 功一
委 員 宮崎 将三
委 員 荏 隈 敏之
委 員 中 川 縁
委 員 今 野 藍子
委 員 尼 子 一高
委 員 田 中 輝雄

3 事務局の出席者

長屋 吉輝 指導第二課長
与 座 淳 指導第二課長補佐
日浦 聡一 指導第二課指導主事
伊木 勇介 指導第二課指導主事
山中 晴詞 指導第二課指導主事
波止元 貴士 指導第二課指導主事
遠藤 寛喜 指導第二課指導主事

4 議事日程

- (1) 開会
- (2) 採択審議会 会長挨拶
- (3) 中学校用教科用図書（技術・家庭【技術分野】、社会【地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図】）に係る調査・研究の結果について（報告）
- (4) 教育委員会への答申について（審議）
- (5) 採択審議会 会長挨拶
- (6) 指導第二課長挨拶
- (7) 閉会

5 議事の概要

○ 日浦指導主事

本日の進行役をさせていただく指導第二課の日浦です。開会前に一点ご連絡があります。第一回目の審議会より、委員の変更がございました。資料1の2ページにてご確認ください。本会議より、長束中学校の中川縁（なかがわ ゆかり）教諭に加わっていただきました。中川教諭、一言お願いいたします。

（中川委員 挨拶）

○ 日浦指導主事

よろしくお願いします。

それでは、現在、本採択審議会の皆様、19名の内、17名の出席をいただいております、「3分の2以上の出席」であることから、本採択審議会は成立することになります。なお、委員の皆様の内、河野委員、船谷委員から遅れてこられると連絡をいただいておりますのでお知らせしておきます。

本日お配りしております、資料について確認させていただきます。（資料1、資料2）なお、資料につきましては、会議終了後、回収させていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、令和6年度広島市教科用図書採択審議会を開催いたします。

○ 日浦指導主事

議事に入る前に、前回の会議録の確認をします。資料1の10ページをご覧ください。このことについては、会長に内容を確認の上、了承をいただいております。しばらく時間をとりましますので、内容を確認してください。

（内容確認 3分）

ご質問ご意見はありませんか。

○ 山田委員

（田中委員と山田委員の発言について）発言者の名前が違うと思います。

○ 日浦指導主事

大変失礼いたしました。訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。その他ございませんか。

（頷く）

○ 日浦指導主事

それでは、議事について、会長・副会長の方で進めていただきたいと思います。小田会長、よろしくお願いします。

○ 小田会長

それではよろしくお願いします。本日は、社会科、技術・家庭科 技術分野の2教科5種目について御審議いただくことになっています。たくさんの教科書を審議することになります。限られた時間の中で審議が適正に進むよう努めてまいりますので、委員の皆様には、様々な観点から幅広く御意見をいただき、充実した会となりますよう、御協力をよろしくお願いします。

それでは、配付資料の1の1ページにありますとおり、進めていきたいと思います。まず、教科用図書の調査・研究の経緯及び本日の審議について、事務局から説明をお願いします。

○ 日浦指導主事

教科用図書の調査・研究の経緯、本日の審議について説明させていただきます。

(説明)

○ 小田会長

ただいまの説明について、ご質問等はございませんか。

(頷く)

○ 小田会長

それでは、「審議」に入りたいと思います。

先ほど事務局から説明がありましたように、技術・家庭 技術分野から1種目ごとに教科書の調査・研究報告を調査員の代表からしていただきます。委員の皆様から質問がございましたら、出していただき、報告について確認した後、資料に基づいて審議してまいります。

(技術・家庭【技術分野】の調査員代表者 宮野校長入室)

○ 小田会長

それでは、技術・家庭科 技術分野の調査代表から技術分野の調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

質問はいかがでしょうか。技術分野の担当の先生はいかがでしょう。

○ 中村委員

そうですね、今この調査研究を聞いて、例えば目標の数であるとか、開隆堂出版にマークがつくことが多かったのかなと思いました。

○ 小田会長

ありがとうございます。質問の方はいかがでしょう。

○ 中村委員

今聞いただけでは、教科書の中身がまだそれほど見えないので、まずは皆さんでめぐりながら見た方がいいのかなと思いました。

○ 田中委員

6 ページのところで、内容 A・B・C・D ごとの問題の解決例についてなのですが、特に D の情報の技術というところは、高校に上がりますと情報科が必修となっていますので、情報の技術は高校とのつながりを考えると、少し重要になるかなと思うのですが、東京書籍、教育図書、開隆堂で括弧内の数を見ると、やはり開隆堂出版が一番多いと考えてよろしいでしょうか。

○ 調査代表 宮野校長

お示しさせていただいたとおり、具体例の数としてはその数があがっております。

○ 田中委員

情報の技術との関連なのですが、3 ページの 2 つ目の丸のところで、掲載例というところがありますが、情報の掲載例として、題材は違うと思いますが、大体扱いは各者とも均等に扱われていると考えてよろしいでしょうか。それともどこか詳しく取り上げているとか、そういった違いはあるのでしょうか。

○ 調査代表 宮野校長

今回ここにご報告させていただいているのは、内容「A 材料と加工の技術」に絞ってご報告させてもらっています。

○ 田中委員

わかりました。

○ 遠藤指導主事

失礼します。事務局から補足させていただきます。内容「A 材料と加工の技術」について、特に取り上げていることについては、本市の生徒の課題の中で、自らの手で加工する経験などが不足しているということが挙げられています。これを加味して特に内容 A について、取り上げています。よろしいでしょうか。

○ 調査代表 宮野校長

はい。

○ 小田会長

その他ございますか。

はい、お願いします。

○ 佐々木（功）委員

すみません。7 ページを見させていただいたところ、開隆堂出版の方には、広島に関する資料を 1 点扱っているという特徴をあげてくださっているのですが、広島で学ぶ子どもたち

ですから、広島の内容が載っているということは、興味に関わってくるのかなと思うのですが、他の教科書には、こういった広島を扱っている内容はなかったということによろしいですか。

○ 調査代表 宮野校長

はい。今回の調査では見つけることができませんでした。

○ 佐々木（功）委員

ありがとうございます。

○ 小田会長

その他よろしいですか。

○ 遠藤指導主事

これについても補足させていただきます。教育図書の後ろから3ページ目のところで、「博物館に行ってみよう」という内容がございます。この中で、広島県の博物館が2点取り上げられています。

○ 小田会長

何ページですか。

○ 遠藤指導主事

教育図書の後ろから3ページ目です。この中で、広島県の博物館が2点取り上げられているのですが、調査会の中では、資料として掲載している訳ではないということで、あえて取り上げなかったと記憶しております。

○ 小田会長

何ページですか。

○ 遠藤指導主事

教育図書の白丸4ページです。

○ 小田会長

はい、ありがとうございます。

○ 小田会長

それでは、報告書にまとめられている内容について、これによろしいでしょうか。それでは、技術・家庭科 技術分野の調査代表の方、ありがとうございました。どうぞ、ご退席ください。

○ 調査代表 宮野校長

ありがとうございました。

(調査代表退室)

○ 小田会長

それでは、本市の実態や生徒の状況に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」と「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。審議にあたっては、本市の実態や生徒の状況に即してまとめられた報告書を参考にして、すべての教科書の特徴を比較して、本市の生徒の課題に対応した特徴のある教科書を決めるということではいかがでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

ご賛同をいただきましたので、進めていきます。委員の皆様からご意見をいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○ 小田会長

ここが特徴的でいいとか、資料を参考にしながら意見を頂ければと思います。

○ 小田会長

すみません。口火を切って技術専門の先生、お願いしてよろしいですか。

○ 中村委員

技術の授業数はとても少ないので、まず、どんな流れで授業をしていくかを説明した上で、3年間の授業を進めていくといった流れになっています。その中で言うと、観点2の2つ目の丸あたりになると思うのですが、巻頭のガイダンスで説明している、それを漫画にして説明している開隆堂出版は、流れとしては進めやすいのかなと思いました。

○ 小田会長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。ではお願いします。

○ 佐々木（功）委員

本市の生徒の実態のところに、生活の中にある問題を見いだして課題を設定することという課題が出てきていると思いますが、先程、調査代表の方が言われてみんなで開いたページがあると思うのですが、その中で、開隆堂の「家族で使える充電しやすい」とか「小さい子でも使いやすい」という表現が出ているので、中学生が読んでも、そういった視点で加工していったらいいのかとか、こういう場面に出くわしたときに上手に解決するために技術の力を使っていくのかと、イメージが湧きやすい表現が多いなと感じました。なので、実態に即している開隆堂出版の表現は、他の教科書と比べても課題設定という部分でわかりやすい表現が多いなという気はします。

○ 小田会長

ありがとうございます。違う視点からでも、「よりふさわしい」「ふさわしい」教科書を決めていくので、特徴的なところや気づきがあったらお願いします。ではお願いします。

○ 山田委員

色々意見が出ていると思うのですが、開隆堂の教科書のメリットが多いのと、その次が東京書籍といった形になっているのではないかと思います。実際、中身を見ましても、開隆堂の教科書は、とても具体的で細かいところまで記載されているように思います。そういった意味で、生徒が自分でも学習できる、そういう内容にもなっていると思います。東京書籍の方は、非常にわかりやすいのですけど、そこまで具体的でない。その部分では、開隆堂ほどではありませんが、わかりやすく書かれているので、「ふさわしい」のではないかと思います。

(一同頷く)

○ 小田会長

ありがとうございます。頷いている方がたくさんいらっしゃいます。他に違う方向からもございませんか。

○ 小田会長

調査資料を見ても、東京書籍と開隆堂の2者に絞られてきているように思いますけれども、よろしいですか。

(一同頷く)

○ 小田会長

「よりふさわしい」をどちらにしていこうかということなのですけども、いかがですか。

○ 佐々木（英）委員

まとめていただいている生徒の実態から考えたときに、やはり、今の広島市のこどもたちに大切なのは、思考力・判断力・表現力の育成の部分であったりとか、主体的に学習に取り組む態度であったりとか、そういった観点のところ、しっかり特徴がある教科書がよいのかなと思います。4ページを見ると、東京書籍と開隆堂は、やっぱり各白丸の4つ目、各内容で生活や社会とのつながりを考える内容を設けている、やはりこの2者というのは、広島市のこどもにはいいなという風に思います。それから次のページ、5ページ目なのですけど、開隆堂出版の丸5の視点の3つ目で、AからDの各内容でそれぞれ振り返りシートを設けている、こういったところは学びやすく工夫されているのではないかと思います。こういうところを見ると、この2つの出版社というのはいいのかなと強く感じました。

○ 田中委員

さっき、申し上げたことと関連しますが、8ページの丸8の1つ目の白丸なのですが、小学校それから中学校の他教科との関連というところを見てみますと、東京書籍に比べ、教育図書と開隆堂は少ないことがわかりますが、高校とのつながりを考えたときには、情報科が必修でありますので、それとの関連を考えますと6ページの情報に関する問題解決例の数を考えると、開隆堂と東京書籍なのかなということになります。個人的には、私は今、情報科学部に所属しておりますので、情報化というところは注目しているものですから、今、ICTの時代と言われているので、そういったところで考えると開隆堂と東京書籍なのかなと思います。

○ 小田会長
ありがとうございます。それでは「よりふさわしい」と「ふさわしい」を決めていきたいと
思います。

○ 尼子委員
丸の数を見ると開隆堂出版の方が多いのかなと思いました。

○ 小田会長
今、たくさんご意見をいただきましたけれども、調査してもらったもののご意見を総合して
いきますと、この2つ（開隆堂出版と東京書籍）のどちらかなのかと思うのですけど。

（一同頷く）

○ 小田会長
皆さん、領いておられると思うのですが、議論していただいた中で見ていくと、開隆堂出版
がよりふさわしいかなと私は受け取ったのですが、いかがですか。

（一同頷く）

○ 小田会長
みなさん、同意していただいております。それでは、「よりふさわしい」は開隆堂出版、
「ふさわしい」は東京書籍ということでよろしいですか。

（一同頷く）

○ 小田会長
今、皆さん領いていただいたようなので、開隆堂出版を「よりふさわしい」、東京書籍を
「ふさわしい」として審議をまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい、ありが
うございました。

○ 小田会長
その他、答申として付すべきことがありますか。
いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任
していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

（一同頷く）

○ それでは、技術・家庭科 技術分野はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

（社会の調査員代表者 寺川校長入室）

○ 小田会長
それでは、社会の調査代表から地理的分野の調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

質問はいかがでしょうか。

○ 宮崎委員

教育出版は、北方領土に関するページでは、南東が上になった地図を掲載していますが、もし分かれば、この資料を掲載している教科書会社の意図を教えてください。

○ 調査代表 寺川校長

普段、私たちが見ている地図は日本を中心に描かれているものが多いです。このページで扱っている内容のように関係国間で領土問題があります。教科書会社の意図は分かりませんが、そういった国に関する課題を扱う際に様々な視点から学習できるようにするための工夫ではないかと思います。

○ 宮崎委員

観点4の視点⑥について、中国・四国地方について、教育出版は人口、その他三者は交通・通信の視点で本単元を扱っていますが、生徒たちにとって、どちらの方が思考が働きやすくて効果的なのでしょうか。

○ 伊木指導主事

事務局から補足させていただきます。考察の視点については、学習指導要領で明記されています。その視点を各教科書会社が選択して、日本の諸地域を学習する際に、各地方を考察する視点としてそれぞれ掲載しています。

○ 小田会長

つまり、考察の視点は各発行者が選択して決めているということですね。

○ 伊木指導主事

そうです。

○ 小田会長

ありがとうございました。その他ございませんか。

○ 田中委員

観点4の視点⑦の2つ目の○について、実際に中学校の社会科の授業でどれだけSDGsを取り上げているのか。

また、何でこれを取り上げているのか。分かれば教えてください。

○ 伊木指導主事

こちらについても事務局から補足させていただきます。教科書会社の意図は分かりませんが、調査項目については、地理的分野において、世界の諸地域を学習する際に地球的課題と関連付けることが学習指導要領に明記されています。そのため、調査の項目として取り上げてい

ると聞いています。

- 田中委員
ありがとうございました。

- 小田会長
ご質問は他にございませんか。

(一同頷く)

- 小田会長
それでは、報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。それでは、社会 地理的分野の調査代表の方、ありがとうございました。どうぞ、ご退席ください。

- 調査代表 寺川校長
ありがとうございました。

(調査代表退室)

- 小田会長
それでは、本市の実態や生徒の状況に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」と「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。審議にあたっては、本市の実態や生徒の状況に即してまとめられた報告書を参考にして、すべての教科書の特徴を比較して、本市の生徒の課題に対応した特徴のある教科書を決めるということによいでしょうか。

(一同頷く)

- 小田会長
ご賛同をいただきましたので、進めていきます。委員の皆様からご意見をいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

- 小田会長
それでは東歸委員、お願いします。

- 東歸委員
本市の生徒の状況が書かれていますが、私も授業をしていて1番気になることは、生徒たちが授業に興味を持ち、主体的に学ぶというか、生徒が社会的事象をただ教え込まれるのではなく、自分たちが考えて表現をする授業がとても大事だと思って日々授業をしているので、この観点に基づいて報告書を見た時に、気になるところがあります。

観点1の知識及び技能の習得の部分です。東京書籍にだけ、社会的事象について、調べまとめる技能を身につける活動を設定しているというところがあります。教師が一方的に教えるのではなくて、生徒が資料を読み取ったり複数の資料を比較したりしながら知識を得ていく授業

はとても大事だと思うので、そのような部分があるのはとてもいいなと思います。

また、生徒が主体的に学ぶという点ですが、④の興味・関心の部分です。東京書籍と教育出版の三つ目の○になりますが、特に、地理的分野の世界の諸地域の話になると、かなりこどもの実態から離れた内容になることが多いので、ただ大きなテーマを示すだけでなく、より細かく具体的なサブタイトルが示されていることはとても魅力的だと思います。

最後に、東京書籍の四つ目の○になりますが、現在の授業では、単元全体を見通して、生徒が何を理解していくのかという授業づくりがとても大事だと思います。そのような授業を展開していく中で、東京書籍は生徒たちが読み取ったことを基に課題を設定し、それに基づいて単元が展開されていくような構成になっているので、まずは、自分たちがその単元で初めて獲得したものから、何でそうなるのかという風に疑問から始まっていくような授業構成が充実している気がしました。

○ 小田会長

ありがとうございました。その他どうでしょうか。

○ 佐々木（英）委員

私も社会科教員ですので、興味深く見ました。⑦の視点について、各発行者が発展的な学習に関する内容で、SDGsを取り上げて扱うとされています。地理的分野の目標の中には、よりよい社会の実現に向けて課題を解決していき、そうしようとする態度を身につけさせることがとても大切なことなので、そういった点から、このように扱っていることは、非常に生徒たちにとっては良いなと思いました。

それから、視点②の中で、東京書籍は学び方とか考え方を学ばせようとしている意図が伝わります。この三つ目の丸のことですが、比較して考える、結び付けて考えるなど、そういった考え方、学び方を示していることは、生徒にとって非常に役立つものだと思います。

それから、視点③ですが、どの者も思考力・判断力・表現力の育成に力を入れていることがすごく伝わってきました。その中で東京書籍は、社会的な見方・考え方を、より多くの箇所で見せようとしています。それは、より一層そういうところに力を入れていることであると感じました。そういうところが本市の生徒にとってはいいのかなと思います。

○ 小田会長

ありがとうございました。本市のこどもの課題に対してのご意見いただきました。その他いかがでしょうか。

○ 山田委員

今の御意見にあったように、どの教科書会社もかなり生徒が主体的に学ぶための工夫があります。その中でも東京書籍は、全体を通して、問いから始まって、内容の検討があって、そして最後にそれをまとめて振り返るという構成となっていて、全体を通して主体的に学ぶ、そういう形のつくりになっている印象です。

同じような工夫が見られるのは教育出版だと思いますが、コーナーごとにはそのような構成が見られるのですが、全体という視点で言うと東京書籍には及ばないのではないかと思います。全体を通して主体的に学ぶという点では、東京書籍が良いのではないのかと思います。

- 小田会長
ありがとうございます。

- 藤村委員
まとめの資料を見ると、東京書籍の「みんなでチャレンジ」は分かりやすいと思います。作業の指示があるため、生徒はこれから何をすればよいのか分かりやすいし、新任の先生が何をすればいいのか分からず困っている時に助かるのではないかと思います。
また、観点1、3つ目の○の「資料から発見」のような特設ページは、本市の状況や最初の目標で、収集した情報から課題解決に向けて取り組むことを重視するには、ふさわしいのではないかと思います。

- 小田会長
ありがとうございました。今のご意見以外で他にありませんか。

(一同頷く)

- 小田会長
意見をうかがっていると東京書籍が、全体を通して主体的に学べ、かつ本市のこどもの実態に沿っており、よりふさわしいという意見が多かったように思いますし、同じ点でみると、全体という視点では十分ではないですが、教育出版も本市のこどもの実態に合っているという意見がありました。このことから教育出版をふさわしいとしてもよろしいですか。

(一同頷く)

- 小田会長
頷いておられる方も多いです。ご異議はありませんか。
それでは「よりふさわしい」は東京書籍、「ふさわしい」は教育出版ということによろしいですか。

(一同頷く)

- 小田会長
その他、答申として付すべきことがありますか。

(一同頷く)

いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと思いますと考えますが、よろしいでしょうか。

(一同頷く)

- それでは、社会科 地理的分野はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(社会の調査員代表者 寺川校長入室)

○ 小田会長

それでは、社会の調査代表から歴史的分野の調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

質問はいかがでしょうか。

○ 佐々木（英）委員

教科書の大きさについては、ほとんどがA B版ですけれども、そうではない教科書会社が2者ほどあると思いますが、その辺りで何か調査員から御意見があったのであれば教えてください。

○ 調査代表 寺川校長

意見ですか。(しばしの間、考える。)

○ 佐々木（英）委員

はい。なければ、大丈夫です。

○ 調査代表 寺川校長

感想としては色々個人の方が言われていたと思いますが、意見としては特にはなかったと思います。

○ 小田会長

それでは、報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。それでは、社会 歴史的分野の調査代表の方、ありがとうございました。どうぞ、ご退席ください。

○ 調査代表 寺川校長

ありがとうございました。

(調査代表退室)

○ 小田会長

それでは、本市の実態や生徒の状況に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」と「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。審議にあたっては、先ほどと同様に本市の実態や生徒の状況に即してまとめられた報告書を参考にして、すべての教科書の特徴を比較して、本市の生徒の課題に対応した特徴のある教科書を決めたいと思いますが、いかがでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

ご賛同をいただきましたので、進めていきます。委員の皆様からご意見をいただきたいと思っています。

○ 東歸委員

ちょうど歴史の授業をしているところですが、やはり生徒たちにとって、歴史は覚える言葉がとても多くて、一体何を理解するのか分からないであるとか、覚えることが多過ぎて苦手になる生徒が多いと感じます。

大事なことは、本市の生徒の状況に注目することです。最近は全体の時代の特色を理解するために、歴史の流れを大きく捉えることを意識しながら授業をしています。それに関わり、学習の見通しを立てられるように探究のステップが教科書に示されていることは、授業する側としてとても参考になります。課題が示してあり、尚且つその課題を記入する活動まで掲載している教科書もあると思いますが、このあたりは教師が用意する振り返りシートに書かせるとか、その他にも色々な手立てがあります。まず、単元の始めに学習の見通しを立てるような資料が掲載してある教科書はいいなと思います。

そして、学習が始まり、最終的にはまとめをしていくことになると思いますが、そのまとめの部分では、様々な思考ツールを使いながらこれまで学習した内容、単元全体の学習内容についてまとめるような学習活動が掲載してあるのはとてもいいなと思いました。

○ 小田会長

調査員の方も強調されていた箇所ですね。全部の教科書にありましたが東京書籍、帝国書院のことを強調しています。その他に意見はありませんか。

○ 宮崎委員

歴史の大きな流れを理解することについて、東京書籍、帝国書院、日本文教出版は、各節の問いの振り返りがあって、大きな単元を学習する中で、ステップを踏みながら今学習した時代は何だったかなというように、段階的に時代の特色をつかめる構成になっているため、生徒にとっては、時代の流れを掴むための理解につながるのではないかと思います。

○ 小田会長

ありがとうございました。先程のご意見に関連してつなげていただいたご意見だと思います。他に意見はありませんか。

○ 船谷委員

私はこどもの頃は歴史がとても好きで思ったことです。山川出版社ですが、まとめのページがとても素敵だと思いました。まとめが楽しくて、逆に少しリクエストさせてもらえば、私は先生ではないですが、まとめを先に学習して、この内容をこれから勉強すると生徒に伝えながら授業をすればすごく面白いと思います。歴史は感情というか、わくわくしながら学習することで頭に入りがやすいと思うので、そのような構成になっている山川出版社が良いと思います。

○ 小田会長

ありがとうございます。

○ 佐々木（英）委員

私も広島市の生徒たちのことを考えたら、東京書籍ですね。どの会社も思考・判断の工夫はしっかりされているなとは思いますが、東京書籍の二つ目の○の見方・考え方を示す箇所の豊富さはやはりすごいなと思います。これはやはり生徒たちが考える手立てになるかと思います。その次の、各中項目の最後にまとめる活動を設けて、ステップチャートなどの様々なチャートを使いながら時代の特色を考えさせる工夫があるのは、振り返りを行う上で非常にいいと思います。それから、これも東京書籍になりますが、広島市のことをこれだけしっかり取上げて授業で使ってくれていることは、広島や本市の生徒たちに、こういう場面でしっかり考えてほしいなという風に強く思いました。

ふさわしいについては、帝国書院と日本文教出版が選びたいと正直ちょっと思っています。帝国書院と日本文教出版は、どちらも優劣がつけにくい感じですね。これはどちらかやはり選んだほうがいいんですよね。二つというのはないのでしょうか。

○ 小田会長

二つということですよ。事務局の方でいかがでしょうか。

○ 与座課長補佐

事務局から補足させていただきます。よりふさわしいがどこかの発行者になって、次にふさわしいが複数の者となって決定しにくい場合には、過去にそういった事例もありますので、複数挙げていただいても大丈夫です。

○ 佐々木（英）委員

悩んでいる理由は、例えば帝国書院でいうと、20ページの三つ目の丸です。まとめるときに、思考ツールを使いながらまとめさせるというのは、なかなかいいなという風に思いますし、見方・考え方の示し方は数的には多い。一方で、日本文教出版は、見方・考え方を小項目の課題に示しているのも良いと思います。私自身は正直この二つの出版社の甲乙をつけがたく悩んでいます。

○ 小田会長

今ご意見いただいたことも含め、ほかの教科書会社の特徴もありますか。

○ 佐々木（功）委員

私は宮崎の出身で、広島の人間ではないので、平和学習をする際にも色々考えさせてもらうのですが、本市の教科書採択ということなので、広島原爆ドームとか平和の特設ページが描かれていて、しっかりと広島のことが扱われているので魅力的だなと思うので、これまでの意見も聞きながらだと、よりふさわしいは何となく東京書籍と聞かせてもらっていましたが、帝国書院、日本文教出版、いろんな会社の特徴がありますが、山川出版社も、広島市の特設ページが確かあったと思います。令和書籍にもありますが、実際僕が受け持っている生徒のことを考えると、山川出版の教科書を読んでいる姿のイメージが浮かばなくて。持って読んで勉強を頑張っているイメージがこの教科書ではなかなかないかなというのがあって、山川出版がふさわしい方には入らないのかなと思います。私は社会科ではないので、専門的なことは分かりませんが、広島の子供を考えると、平和学習的な部分がしっかりコラムであるとか、広島はこんな場所なんだと思うことにも繋がるのかなと個人的には思いました。

○ 小田会長

こどもたちの姿を描いてのご意見ということでした。ありがとうございました。

○ 佐々木（英）委員

よろしいですか。言われたように、特設ページで広島のことを取り上げているのが東京書籍と山川出版社だと思います。ただ一方で、山川出版社をみたときに、本市の生徒に、本来付けさせたい思考力・判断力・表現力、その部分を考えたときに、やはり山川出版社の特徴は薄いと思うんです。やはり本市の生徒たちの弱い力をしっかり補えるのではないかという点で、東京書籍と山川出版社を比べると、やはり東京書籍だと思いますし、帝国書院や日本文教出版と比べたときも、思考判断であるとか、主体的に学習に取り組む工夫の特徴が、帝国書院も日本文教出版もしっかりあらわれていると思いますし、山川出版社がよりふさわしいに入るのかと言えば、私はそこには入らないかなと思います。

○ 藤村委員

東京書籍と山川出版社で悩んでいて、東京書籍の内容はすごく濃いので、よいところもあります。地理的分野が東京書籍になった以上、そちらと合わせた方がいいのかなとも思います。私は今、研修で理科の授業づくりをしています。ゴール地点を最初に学習した後で、そのゴールに向かって授業を進めます。先程の委員が発言されたように、山川出版社のようにまとめから入るのも捨てがたいと思います。ただ、東京書籍を使ってそのように授業をしろと言われたら出来るとは思います。大きなゴール地点から戻って、授業をする、そのように授業を組み立てるのであれば、山川出版社かなと思います。

○ 山田委員

よろしいですか。ここまでの話を踏まえ、よりふさわしいというのは東京書籍だと思うけれど、ふさわしいがどれか判断が難しいです。今、議論になっている東京書籍と山川出版社のどちらがいいかっていうのは、方向性の違いではないでしょうか。

東京書籍の方は、本当にチャート式の参考書のような形になっていて、大枠を掴んでいて、ある意味とても使いやすい教科書だと思います。ただ、逆に教員が個性を発揮して色々教える授業をしようと思うと、それに縛られて難しいという話になるので、歴史が好きな方が山川出版社を勧めるのはそういうことではないでしょうか。色々な指導の方法があるが、そういう意味で山川出版社も私は捨てがたいです。

帝国書院と文教出版でかなり迷っているようですが、見てみれば教育出版も劣っているわけではない。となると、よりふさわしいは東京書籍、考え方によっては山川出版社、ふさわしいについては3つか4つかあることになる。それはどれがいいか、決めきれないですね。

○ 田中委員

確かに今挙がった教科書は優劣がつけがたいと思いますが、私は令和書籍が異質でおもしろいのではないかと思います。令和書籍は原爆投下についての記述が多いこと。また、地理の教科書は地図などカラーがすんなり入ってきやすいが、歴史の資料をカラーで見ることもあるが、白黒で私個人としては見やすいと感じます。現場の先生方はカラーが良いのかもしれませんが。

○ 東歸委員

色々な意見がありますが、学習対象は中学生なので、1年生からこの教科書を使うことになります。そう考えて、各者のページに書かれている文字数を見たときに、例えば、山川出版社は文字数が多いのではないかと思います。文字のサイズを違いますし、東京書籍なんかと比べると少し字が小さいのかなとも思います。生徒の中には文字も読めない、漢字も読めない生徒もいるので、中学校1年生、2年生、3年生を対象とした際に、どれがふさわしい教科書なのかという視点がやはり必要だと思いますので、見開きページなどの構成も考えていかないといけないのではないのでしょうか。

○ 小田会長

はい。ありがとうございます。

○ 佐々木（英）委員

ふさわしい教科書をどれにするかを選ぶときに、私たちは迷ったら、この報告書で調査員の皆さんが挙げている本市の生徒の課題に立ち返るべきだと思います。そこにも書いてありますが、複数の立場や意見を踏まえて、公正に選択判断したりする力、思考判断したことを説明したりそれらをもとに議論したりする力に課題があることが、本市の生徒の課題です。この広島市の生徒たちの課題に応えられる教科書はどれか、考えたときに、私はやはり、観点2のこの調査の部分に特徴が多く挙げられている教科書が選ばれるべきだと思います。

本市の生徒たちの課題に沿った、その課題を克服するための特徴を多く備えていることだと思いますから、そういう意味ではやはり帝国書院や日本文教出版は、このような特徴も多いですし、ふさわしい教科書に挙がり得るかなと思います。

○ 小田会長

ありがとうございます。たくさん意見をいただきました。意見が活発で話も尽きないですが、今までご意見をいただいた中でよりふさわしい教科書は東京書籍で異論はないのでしょうか。

（一同頷く）

みなさん同意されておられますので、東京書籍を「よりふさわしい」とします。では、「ふさわしい」者を決めたいのですが、さきほど挙げました4者（教育出版、山川出版社、帝国書院、日本文教出版）が甲乙つけがたいので、一人1回ずつ手を挙げて多数決で決めようと思います。みなさん、いかがでしょうか。

（賛同の拍手）

○ 佐々木（英）委員

1つ選ぶのですか。

○ 小田会長

はい、そうです。少し時間をとります。同数になった場合は、事務局からもありましたが、二者を「ふさわしい」として挙げていきます。

○ 小田会長
では、教育出版がよいと思われる方。

○ 佐藤副会長
0 です。

○ 小田会長
次に、帝国書院がよいと思われる方。

○ 佐藤副会長
8 名です。

○ 小田会長
次に、山川出版社がよいと思われる方。

○ 佐藤副会長
4 名です。

○ 小田会長
最後に、日本文教出版がよいと思われる方。

○ 佐藤副会長
5 名です。

(再度確認した後)

○ 小田会長
教育出版はいかがでしょうか。(少し間があり) なしですね。
それでは、合計 17 名で良かったですね。

○ 与座課長補佐
会長、副会長で 19 名となりますので、大丈夫です。

○ 小田会長
したがって帝国書院を「ふさわしい」とします。

(一同頷く)

○ 小田会長
その他、答申として付すべきことがありますか。特にないでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは、いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと思いますと考えますが、よろしいでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは、社会科 歴史的分野はこれで終了です。

ここで一旦休憩をとりますので、16時15分にお席にお着きください。

(休憩後)

○ 小田会長

それでは再開します。

(社会の調査員代表者 寺川校長入室)

○ 小田会長

社会の調査代表から公民的分野の調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

ありがとうございました。質問はありませんか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは、報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。それでは、社会 歴史的分野の調査代表の方、ありがとうございました。どうぞ、ご退席ください。

○ 調査代表 寺川校長

ありがとうございました。

(調査代表退室)

○ 小田会長

それでは先程の報告を基にみなさんからご意見をいただきたいと思います。

○ 東歸委員

公民分野は各単元のテーマがはっきりしています。いつも大きな単元に入る前に導入の活動があります。その導入で使いやすいのはどれかという視点でいくと、報告書の32ページ④の一番上の○ですが、各項目の冒頭が単元に入ると思うのですが、東京書籍は、導入の時点でい

きなり憲法の話とか政治の話に入るのではなくて、こどもたちが考えやすい活動から入る課題がどの単元にも設定してあるため、授業の入りとしては、こどもも入りやすいし、とても魅力的な内容だなと思います。振り返りの部分はどの発行者も同じような内容ですが、導入の部分を考えると東京書籍が一番良いと思います。

○ 小田会長

ありがとうございました。他にありませんか。

○ 佐々木（英）委員

公民の生徒の課題も「思考判断したことを基に説明したりするなど」が挙げられていますから、やはり観点2を見てしまうのですが、そういった中で、東京書籍だとか帝国書院は、やっぱり見方・考え方の示し方が豊富だと思います。

それから、帝国書院や東京書籍のうち、四つ目の丸、対話や議論を促すといった活動例もしっかり入っていますし、ページが飛びますけど33ページに行きまして、発展的な学習に関する内容も、この2者は、やはりよりよい社会づくりに向けた発展的な中身ということをよく考えられていると思います。帝国書院の方は、学習内容に関連する実社会の動きについて新しい事例を掲載しているので、なかなかいいなと思います。それと、ちょっと戻るんですけど、32ページの視点の④の東京書籍の二つ目の丸ですけれども、小項目のタイトルの下にサブタイトルをつけて考える手立てなど、そういったところが分かりやすく示してらっしゃるところも、こどもたちにとっていいと思うので、総合的に考えるとやはり東京書籍がよりふさわしい、次は帝国書院かなと思いながら私は見ておりました。

○ 小田会長

ありがとうございました。その他ご意見はありませんか。

○ 山田委員

これまでと同じように比較すると、東京書籍の組み立てが一番良いのではないかと思います。次にふさわしいはどこかなと思い比べてみました。最初は帝国書院かなと思いましたが、見てみると取り扱っているレベルが少し身近なものでないのかなと思ったり、とは言え話し合いの活動ではロールプレイングなどを取り入れたりしているので面白いなと。一方、日本文教出版社の方も身近な例を使って、話し合いを行うような活動も掲載しているのでアイデアが面白くて、正直どちらがいいのか現時点では難しいですね。

○ 小田会長

3人の意見だけなのですが、よりふさわしいのは東京書籍ではないのかなと感じますが、みなさんどうですか。

（一同頷く）

○ 小田会長

では、ふさわしいに対する意見がいただけたらと思うのですが。

○ 田中委員

観点3の⑤の一つ目の○、扱っている事例を見ると、東京書籍それから帝国書院がいいなと思います。教育出版はクレジットカード決済を取り上げているが、中学生でこのような内容を扱っても良いのかなと個人的には思います。それ以外は帝国書院の18歳への準備などのページはいいかなと思いました。こどもの実態や生徒の状況を見たときに、社会的事象とあるので、それぞれの各者が取り上げている事例にも注目したらいいのではないかと思います。

○ 小田会長

ありがとうございました。帝国書院について意見をいただきましたが、その他の教科書会社について意見はありませんか。

○ 小田会長

ご意見がないようなので、「よりふさわしい」は東京書籍、「ふさわしい」は帝国書院ということでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

その他、答申として付すべきことがありますか。特にないでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと思いますと考えますが、よろしいでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは、社会科 公民的分野はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(社会の調査員代表者 寺川校長入室)

○ 小田会長

それでは、社会の調査代表から地図の調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

みなさんご質問はありますでしょうか。

○ 小田会長

それでは、社会 地図の調査代表の方、ありがとうございました。

- 調査代表 寺川校長
ありがとうございました。

(調査代表退室)

- 小田会長
それでは先程の報告を基にみなさんからご意見をいただきたいと思います。

- 東歸委員
一番いいと思ったのは、38ページ 観点2に関わることで、問題解決的な学習をするための工夫のところですが、帝国書院について、地図帳は地理の授業で活用することが多いので、複数の資料を関連させて事象を説明する課題をする中で、まずは全体に関わる問いを設定し、資料がすごく整理しやすく、授業者としても助かるし、とても良いと思います。

- 小田会長
ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

- 山田委員
以前は、帝国書院の方が、地図が大きくて色々なデータも充実していたが、地図も同じ形になっていて両者の差がなくなっているなという印象です。それでも、帝国書院の方が見やすく分かりやすい。それ以外の色々なデータなど、帝国書院の方が興味深いデータが多く掲載されている印象があります。そういう点で帝国書院がよりふさわしい、東京書籍がふさわしいのではないかと思います。

- 小田会長
ありがとうございました。その他ありませんか。

- 佐々木（英）委員
よろしいですか。今、調査員の方が説明してくださった九州北部の方を比べて見たときに、やっぱり立体感の表現というか、帝国書院の方が見やすく感じてしまうのですね。色使いなのか。思考判断の問いなんかはどちらも工夫されているのですが、こどもたちの課題も思考判断については当然あるんですけど、情報を読み取る上で、地図帳ってやっぱり見やすいものであってほしいなっていうのがあって、それを考えると、やはり立体的な見やすさっていうのは帝国書院が優れているなと私は感じました。

- 小田会長
ありがとうございます。その他ないでしょうか。

(一同頷く)

- 小田会長
それでは、出された意見をまとめますと、帝国書院が「よりふさわしい」、東京書籍が「ふさわしい」ということでよろしいですか。

(一同頷く)

○ 小田会長

その他、答申として付すべきことがありますか。特にないでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと思いますと考えますが、よろしいでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは、本日の審議の結果をまとめ、教育委員会に答申するという事でよろしいでしょうか。

(意義なし)

○ 小田会長

賛同の声をいただいております。では、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数で決することとなっておりますので、挙手をお願いします。

(賛成の挙手)

○ 小田会長

全員に賛成の挙手をいただきましたので、可決いたしました。

それでは、教育委員会から諮問された教科書の調査・研究について、慎重に審議を行った結果を先ほど可決いただいたように答申します。

以後は、会長の責任において、事務局との間で答申の事務手続きを行いたいと思いますが、会長に一任していただけますか。

(意義なし)

○ 小田会長

それでは、これで本日のすべての審議を終了します。

委員の皆様の御協力によって、広島市の教科書採択について、公正かつ適正に審議し、教育委員会へ答申することができそうです。委員の皆様、御協力ありがとうございました。

それでは事務局へお返しします。

○ 日浦指導主事

委員のみなさまありがとうございました。最後に指導第二課長より御挨拶をさせていただきます。

(課長挨拶 別紙)

○ 日浦指導主事

長時間にわたり、委員の皆様大変ありがとうございました。
最後に何点か事務連絡いたします。

(事務連絡)

以上でございます。これで、令和6年度第2回広島市教科用図書採択審議会を閉会します。
ありがとうございました。気を付けてお帰りください。